

令和元年横田基地研修所感

法人賛助会員
三菱商事株式会社
木内 俊介 氏

今回私は初めて JAAGA の研修に参加させて頂きました。業務上、基地を訪問する事は何度かありましたが、今回の研修は私にとって格別の体験となりました。

横田基地内に入り最初に我々が目にしたのは、米軍が保有する CV-22 オスプレイでした。小型の航空機を想像しておりましたが、小さな車両を搭載できる程の大きさがあり、非常に安定した形状をしている、という第一印象を抱きました。また、本機が人道支援/災害救援の役割を担っており、小回りの利くヘリコプターより迅速に、且つスピードの速い航空機では到達できないポイントでの救援活動を行えるとの説明を聞き、昨今災害が多発している日本において、なくてはならない存在であると確信しました。その後輸送機 C-130J スーパーハーキュリーズや無人偵察機 RQ-4 グローバルホークなど日本の自衛隊基地では中々見る事のできない貴重な装備を見る事ができ、とても有意義な時間となりました。

シュナイダー中將率いる第 5 空軍との面談では、在日米軍が中国/北朝鮮などだけではなく、自然災害に対してもアンテナを張り、日本そしてアジア太平洋地域の安全保障に大きく貢献している事を再認識する事ができました。面談後、私はシュナイダー中將と一対一で話す機会に恵まれ、日本のミサイル防衛に関して意見交換を行う事ができました。階級が驚くほど高く、私のような一般人が到底会話を行えるような相手ではないと思っておりましたが、非常にフレンドリーに、且つ丁寧に質問にご回答頂いた事に感銘を受けました。

最後に航空総隊司令部の方々との面談ですが、航空総隊副司令官上ノ谷空將に質問をさせて頂く機会があり、日本の IAMD(統合防空ミサイル防衛)に関してご意見を伺う事ができました。現状日本の防衛計画は、宇宙/サイバー/電子領域、所謂“宇サ電”に注目が集まる一方で、IAMD に関しても確りと盤石な体制を整え、航空自衛隊が保有している航空機などのアセットをいかに効率的且つ統合的に運用するかを検討している、というお答えを頂きました。私自身も現在航空自衛隊が保有するアセットにどのようなものや機能を加え、それらをどのように運用すれば日本の自衛隊が最も力を発揮できるのかを検討し、少しでも日本の安全保障そして平和に貢献する事ができれば、と考えました。